



KENMEI ACADEMY

2012年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価
- II 小学校自己評価
- III 中学高等学校自己評価
- IV 学校関係者評価

学校法人 賢明学院

2012 度 賢明学院幼稚園 自己評価

1 本園の教育目標

「豊かな心、たくましく生きる人間性の基礎を育てる。」

カトリック精神に基づいた教育によって、神と人々の前で誠実に生き人間味豊かな人格を育てることを目標にしています。子どもたち一人ひとりの個性を大切に、子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し、愛する心、祈る心、感謝する心を養い、お互いの気持ちを大切にできる子どもたちの育成を目指します。

2 2012 年度の重点取り組み目標・計画

- * 幼稚園が子どもたちにとって快適に生活ができ、安心して過ごせる場である。
- * 子どもたちが一人ひとり大切にされていることを感じ、いきいきと目を輝かせて活動ができる。
- * 保育に携わる機関としての日々の教育活動を見直し、秩序感のある環境を整える。
- * 保護者に見える保育を実践する。
- * 社会のニーズに応える。(預かり保育・未就園児保育・子育て支援)
- * 子どもたちが、職員の立ち居振る舞い、言葉遣いから倣うことができる。

3 評価項目の取り組みと達成状況

評価項目・目標	取り組み状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等をよく精査して、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	カトリックの幼稚園という意識を大切にして、年間カリキュラム・月案・週案などを作成し、計画性をもって進めます。 教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導を研究し、子どもたちが興味を持って取り組むような保育を推進します。
2 保育の在り方、幼児への対応	幼児一人ひとりのみとりは、それぞれの職員が重点目標を意識した結果向上しています。生活習慣における指導では、基本的なことから根気強く進めることをより大切にし、押さえつける保育にならないように十分注意しています。 縦割りクラス活動を通して、異年齢児との関わりを持つことで発達の違いを見定め、思いやりの心を育てています。
3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。	保育後の振り返りの時間を持つことによって、子どもたちの様子や保育者の考え方も共有することができています。また、課題点だけでなく達成したこと、うれしかったことを報告することによって、子どもの成長を共に喜ぶことができています。

4 保護者への対応	保護者との信頼関係を持つことを重視し、多くの時間を費やすことを目標に取り組んでいます。仕事を持つ保護者との対話の時間をどのように多く持つためのさらなる工夫が必要であると感じています。
5 地域社会との連携 地域社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。	地域の方にも、園庭開放はじめ、園の行事に参加していただけるよう、ホームページ・回覧板・地域の掲示板などを利用して呼びかけています。 進学先の小学校と、連絡を取り合ったり、地域の老人ホームを訪問したりしています。
6 研修と研究 研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。	学院内研修・園内研修・園外研修などに目的を持って参加することができました。園庭の畑には、1年を通して野菜や果物が育てられており、環境が教育的意味を持つことを感じることができました。
7 カトリック幼稚園の使命 カトリックの教えである「愛する」ことを伝えていく。	職員一人ひとりが神の愛を感じ、神から預かった子どもたちに対して、言葉がけ・立ち居振る舞いすべてにおいて、「愛する」ことを伝えていくようにしています。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>保護者アンケートをもとに行った学校評価では良い評価をいただきました。これにより、職員一人ひとりが、自己評価・学校評価の主旨を理解し、客観的な目で自らの教育、保育を振り返ることができたと思います。</p> <p>保育中の子ども同士のトラブルを指導していく中で、保護者にも過程や指導の方向性を伝え、理解を求める努力はしなければなりません。園の教育方針や内容をわかりやすく伝え、同じベクトルで子どもの成長を見守っていけるよう努力と工夫を重ねたいと考えています。</p>
--

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
子どもの尊厳を大切にする	保育者の日々の言葉がけを丁寧に行います。 1人ひとりのタレントをみつけ、伸ばしていきます
見える保育	子どもたちの様子を見ていただくために公開保育を実施していますが、その場面だけを見ていただくのではなく、指導の目的、過程を理解していただけるよう配慮します。 クラス懇談会を学期に一回行い、取り組んでいる「おしごと」の意義、目的、方法などを保護者の方と共有する機会を作り、理解を深めていきます。
保護者とともに	子どもの自立・自律を支えるための保護者の援助のあり方を伝え、共に子どもの成長を支援していける関係を構築します。 保護者会や教育講演会を通して、幼稚園のときに子どもが学ぶべきことを保護者の方と共有していきます。

6 学校関係者の評価

保育活動は保護者の期待に応えているとの判断は、前年度に比べ相対的に数値が向上しているという点から見て適切であると言えます。また、アンケートの回収率の向上は、教職員一人ひとりの努力の成果なので、今後も継続して頂きたいと思います。

保護者との連携を綿密にする事で問題点の共有化を図る事については、2012年度の目標に掲げていたはずですが。園として、未だ不徹底な部分があると感じいらっしゃるなら、早急に対策を取って頂きたいと要望します。

7 財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がなされていると認められています。

2012年度 賢明学院小学校 自己評価

賢明学院では学校教育法に基づき、教育力向上をめざし、幼稚園・小学校・中学高等学校が相互に連携し、学校評価委員会の指針に従って学校評価を行っています。賢明学院小学校では、ミッションスクールとしての使命と小学校教育の現代的な在り方を追求することを学校評価の目的の柱としました。そこで、保護者の皆様の協力を得て、「学校運営」「学習指導・生活指導」「設備・安全」について、保護者および教員を対象にアンケートを実施いたしました。

今回行いましたアンケートの分析結果をもとに学校評価（自己評価）を行い、学校関係者評価と合わせて提起された課題の具体的改善を行い、小学校教育活動へのさらなる信頼向上を図る所存です。

以下に、2012年度の学校評価結果（自己評価）について報告いたします。

◇ 重点的に取り組む事が必要な目標

①共に学ぼう

児童が他者の意見や考え方に対し、自身の意見を発表できる授業形態への移行に全教科をあげて取り組みます。

- ・「自分の考えをまとめる。」「わかりやすく伝える。」「友達の意見を正しく聞き取る。」

そのためには個別指導が必要となるので、教師間の相互連絡会議を設定して、児童に関する情報の共有を図ります。

- ・学年間で担任による児童の指導に関する連絡・報告・相談会議を毎日実施します。

子供の声を良く聞き、保護者の声に耳を傾けるために、連絡帳による学校と保護者の情報共有化を図ります。

②教師の授業力の向上

- ・全学年共通の授業ルールを徹底します。具体的には、教室の環境整備・発表ルールの構築や、児童が「です」「ます」まではっきりと言えるよう、言葉遣いの指導等を徹底します。

- ・児童が自ら取り組む授業をめざして、授業構成研究と実践研究を学年と教科の双方で実施します。

- ・教師自ら時間を守り、始めと終りの挨拶をきちんとするなど基礎基本のルールを徹底します。

◇アンケート結果を踏まえた目標の達成状況及び取組の状況

【学校運営について】

学校の教育方針、本校の教育の根幹である宗教教育については、一定の理解が得られているが、学年によってバラつきがあり、徹底するための改善が必要であると感じました。学級通信や学年便りに工夫を加えるとともに、学年集会などの内容も吟味する必要性があります。児童と同じく保護者にも宗教行事の内容・教育的意義をもっと伝えるための一層の努力と工夫が必要であることを認識させられました。他の学校行事についても同様であると考えます。

保護者の学校理解については、年間を通しての担任との面談や参観などを通して、保護者との連携を図り

一定の成果がありました。さらに保護者との共通理解・協力体制をより深めるため、普段からのコミュニケーションの重要性を認識し、大切にしていきたいと思います。

また、保護者との信頼関係をさらに強固なものにしなければならないと考えています。例えば子どもの学校でのけがやトラブルなどを、きちんと保護者に伝え、説明できなければならないですが、不十分とする保護者が中、高学年（3年～6年）で3割弱存在していたのは残念でした。保護者の不安や疑問を解消していく努力が必要であると感じています。とくに担任の保護者の信頼関係を一層強くするため、さらなる検討改善を推進する必要性を感じています。

その他では、給食を実施していますが、全学年で満足度が低かったのが残念でした。満足度を高める努力と改善に継続して取り組んでいきたいと考えています。

また、幼稚園や中学高等学校との交流は一貫教育の特色として価値があり、幼・小・中高の交流は、相互にとってもいい教育的効果を与えていますので、今後も一層発展させていく所存です。

【学習指導・生活指導】

教員の努力もあって授業の内容についてはほぼ理解できています。興味・関心を持たすための授業に対する創意工夫、教科研究など、一層の研鑽に励む所存です。

宿題は計画的に出されていますが、宿題の量・質が児童の実態や進度にあったものであるか、常々検証して子どもたちにとってより効果的なものにする必要があります。教員が、ノートや日記・連絡帳などを丁寧にみるように心掛けた結果、まとめ方、文字の丁寧さ等に成果を見ることができました。今後も丁寧さを大切にするとともに、特に低学年に対する指導に力を入れたいと考えています。

生活指導では、教員は児童がよくないことをしたとき、ダメなものはダメと伝えることが必要です。これは保護者の願いでもあります。感情に支配されることない適切な指導ができるよう、研修の実施も含め教員の資質の向上を図っていききたいと考えています。

また、学校での担任と児童との関係性はおおむね良好ですが、教師との触れ合い、学級活動の時間、担任のホスピタリティーなどについて検証・研究し、担任と児童の良好な関係を維持・発展させていきたいと考えています。学校では心の教育を大切に、積極的に指導を行っていますが、高学年で4割以上の保護者から否定的な回答が寄せられ、残念な思いと児童に申し訳ない気持ちで一杯です。感動体験を始め、児童の内面に働きかける教育を日ごろからあらゆる場面で大切に、実行していかなければなりません。「心の教育」や「しつけ教育」については、学校と家庭との連携が不可欠であり、協力体制が一層深めることが大切であり、鋭意努力していきます。児童個々の特性や性格を把握し、愛情を持って接するよう心掛け、保護者や児童の満足度がさらに向上するように日々検証しながら、信頼関係の中でTHE BESTの精神を大切にした賢明教育を発展・継続していきたいと考えています。

【設備・安全】

学校の教育施設・設備は整備されており、満足していただいています。さらに教育環境の充実を目指していきたいと考えています。とくに図書館は充実しており、よく活用されているとの評価を受けているが、図書館のより使いやすい環境づくりをこれからも進めていきます。また、運動場で安全に楽しく遊ぶことができる環境にあることに対して評価を得ています。安全の確保については、今後も万全を期します。台風や地震など、非常時や緊急時の行動の仕方を保護者にも伝えてはいますが、十分に周知されていないようでした。登下校の児童の安全確保のため、保護者との共通理解をさらに深めることが必要であると感じています。

◇自己評価総括

次年度に改善点すべき重要な事項及び、具体的な対策の取り組みは以下の通りです。

【保護者連携】について

「いっしょに学校をつくりましょう。」と呼びかけた創立者の精神に立ち返って、より開かれた学校づくりをめざします。その為に、教育内容や学校生活について、分かり易く伝える必要があります。具体的には、学年通信の充実と保護者集会を実施します。学年通信については、児童の活動がいきいきと伝わるような表現、構成を工夫していきます。保護者集会については、学年の始めと終わり（4月・2月）に全保護者対象の集会を開催する予定です。4月は学校の教育目標・方針について、2月は1年間の反省・次年度に向けての取組・課題についての説明をする事で、情報の共有化を図って行きます。

【こころの教育】について

キリストの教えに基づいた心の教育によって、他者を大切にし、敬う心を育てると共に、伝え、学び合うことの大切さを子供たちが実感できるようにします。宗教的雰囲気大切にする為に、学年別の宗教的目標を提示して全教職員がそれを共有します。

【教科指導】について

授業のルールづくりや、授業・教材の研究を通して授業力の向上を図ります。その為に、授業を指導する指導教官を設置し、その指導の下に指導要録・指導書の研究や、年間カリキュラムの見直し・進捗の確認等を実施します。公立・私立を問わず、他の小学校との共同研究を実施する事も必要だと考えています。また、習熟度別のクラス編成によって、授業の理解度向上を図ります。

【学級運営】について

学級経営能力の向上によって、自由闊達な教場の実現を目指します。具体的には、集団への指導と個に対する指導の違いを明確にした学級経営案を作成し、検証・改善を行います。改善が必要な場合は管理職等による指導を行います。

また、児童たちの心の状態は教室の状態にそのまま表れます。よって、健全な学級経営において、教室の美化は絶対条件であると言えます。整理整頓、清掃だけでなく、掲示物のレイアウトについても配慮し、明るい教室を演出する事を目標の一つに掲げることにしました。

【学校生活について】

賢明生としての誇りを育てます。そのために、児童会活動の活性化や、制服指導、朝礼時における校旗掲揚等を実施します。また、縦割り教育を重視して、6年生は1年生のサポーター役を務め、学校行事や生活面で面倒をみる様に指導する事で1年生は上級生を尊敬し模範と出来るような関係をつくっていきたいと考えています。

2013年4月1日

賢明学院小学校
校長 篠原康二

2012年度 賢明学院中学高等学校 自己評価

上野芝の閑静な地に女子校として根付き地元の皆さんに愛されて60年。男女共学化から3年の教育の歩みを保護者・生徒・教員の「学校評価」によって、分析し検証することは、教育力の問題点を発掘することとなり、今後の私たちの教育改革を推進する指針と捉え、2013年度「学校経営の目標」の大きな柱としなければならないと考えています。

この「学校評価」には、ご多用の中にも関わりませず、多くの方々からご協力とご理解を賜りまして、ご意見をお寄せいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

カトリック精神に基づき、「お預かりしました生徒を温かく大切にしっかりと伸ばす」事を目的として、全教員が日々研鑽し教育活動に邁進して参ります。保護者・生徒の信頼の下、生徒と共に歩み生徒と共に成長する手本となるべく教員として、強力で且つ繊細な心の籠った指導を推進して参ります。

男女共学化の導入による教育内容の確立と充実等々、教育改革の真っ直中の今、少子化で経済不況の下、私学にとっては厳しい時代にあります。幸いにも高校授業料無償化により、公立志向から私学志望者が増え、本校もその恩恵を受け志願者が増加し元気な学校となりつつありますが、まだまだ自力回復とは言えぬ状況にあります。賢明学院の「不易」とも言える良き教育を継承するためにも、我々の教育現況を見つめ、そして課題を検討し、更なる教育成果の結実のために、「賢明の教育手法」をしっかりと一步一步実践する時期であると考えています。

「礼節を身につけ、能力・学力を伸ばし、満足する進路を保障する」賢明教育を築くことに専心します。

◇重点的に取り組む事が必要な目標

1. 宗教教育

宗教心を育み愛校心を育てる「こころの教育」の推進

2. 授業を大切にし生徒の学力アップ

教科指導力の研鑽、学習姿勢・自主学習・家庭学習課題のあり方、保護者と連携

3. 進路指導の充実と大学進学実績の向上

国公立大学10名以上の合格など、具体的目標の設定と取り組み

授業内容と工夫、模擬試験対策の方法と実施、大学入試問題の取り組み、

教授法アップ、教科研修、研究授業、教員模試の実施、予備校への受講等

4. 生徒指導のために

礼儀・マナー指導、事前指導、情操教育、ボランティア教育と実践、国際教育

自治意識の高揚、遅刻指導、生活習慣の指導、問題行動生徒の減

5. 特性を伸ばす特色ある教育

「選ばれる学校」としての志願者増と募集定員の確保

中学生の内部進学と賢明小学校からの内部進学

6. 生徒・保護者の満足度を上げる

7. 教育改革推進のための諸課題の検討と実践

8. 校務分掌の職務内容の見直しと検討

◇自己評価総括（目標達成状況及び取組の状況並びに改善点と具体的対策）

【学校生活・総合】について

建学の精神に基づく教育方針については、保護者の皆様から90%以上のご理解を頂き大きなご指示が何よりも大きな力と感じています。保護者との相談や連絡では、昨年のご指摘をもとに、本年は特に大切なことの一つとした事もあって評価が高くなり、また学校の雰囲気がよく生徒も生き生きしていると良い評価を頂いています。今後、生徒の表情をしっかり見たより繊細で細やかな指導を心がけ、生徒たちのための楽しくより有意義な学校作りに励みます。

【学習指導】について

学習面では、授業内容に教員間の差があるのご指摘。説明がわかりにくく実力がつき、大学進学に役立つ授業ではないと、分かる授業のための工夫不足が指摘されました。生徒の理解を常に確認しつつ授業を進めることは教員の基本で、分かる授業の取り組みはプロとしての大きな喜びであります。このご指摘は真摯に受け止め、早急に取り組み改善しなければならない課題と考えています。学習への興味付けはもちろんすべては授業内容にあります。すでに取り組んでいる本校独自の「週案」がよく生かされていないことを残念に思いますが、さらに工夫を加えていきたいと考えます。また、「配布プリントは役に立たない」の評価や提出期限が守られないことや課題などの家庭学習の取り組みが、学習意欲に繋がっていない点も見えてきています。これらをより効果的にするための方策も、今後の重点課題の一つとして努力していきたいと考えています。

【生徒指導】について

挨拶や礼儀・マナーの面では、良い生徒とよくお褒めを頂きますが、女子校時代の礼節を弁えた高貴とも言える品位ある素敵な指導は本校の神髄として継承しなければならない事です。生徒の表情を温かく見守る穏やかな声かけを教員が手本を示し励行する事から、生徒姿勢はより良くなり、授業を大切にされた分かる授業の取り組みとなり、より意欲溢れる学校生活を送ることになると確信しています。

生徒は指導する教員の姿を見て学ぶもの、教員自らが範を示す事の大切さや生徒に対する日々の遅刻・服装などの指導でより、一致した指導が望まれています。教員一人一人が、神経を研ぎ澄ました繊細な感性を磨いていくための努力をしていきたいものです。

保護者への啓蒙も含めて、保護者懇談は考査毎に実施していますが、家庭との密な連絡などにより指導上のご理解が必要です。

生徒は、「学校は友達を作りや楽しい場として有意義であるは80%」。そのような生徒たちの評価のもと、カトリック精神の下、命の大切さ・思いやりや優しさの心を育む教育をより推進して参ります。

【学校行事・クラブ活動】について

男女共学化から、学年進行と共に行事のあり方や男女共同の行事などについても検討を進める中、満足しているが80%と良好。一方部活動でも休みがないほど熱心に活動が行われ、吹奏楽部は関西大会で「金賞」「きらめき賞」の受賞、サッカーやバレーボールも近畿大会から全国へと成果が出ています。

学校行事の新たな取り組みについても、保護者のご理解もあり、新しい発見や学びに繋がり有意

義であるとよい評価頂いています。

部活動での体罰の調査も進め、各部への注意と自覚を喚起し、今後の指導に生かすことを確認しました。

今、それぞれの行事についても、本校の教育指針を鑑み、各行事の見直しやそれぞれの指導観点を確認しつつ、新たな形を整えていきたいと考えています。

【進路指導】について

2012年から、学年主任主導の下に学習のあり方を検討協議し推進しています。中学では3教科を中心とした考査後すぐの定着学習・考査前の学習・模試実施・模試対策・土曜講座・夏季冬季のセミナー・夏季勉強合宿・午後8時までの自主学習などを実施しています。模試データの好数値へはもう少し時間がかかりそうです。考査や模試ごとに、現況を上回るための原因の分析からレベルアップのための方策を検討し、日々の教育活動に生かしています。

今後、模試データを学年ごとに比較し、その都度到達度を確認し比較することによる取り組みを考え、生徒たちの学力を伸ばす事を推進していきます。

進路指導面では、考査毎の年に2～3回程度の懇談と日々の学習への取り組みの強化に努めていますが、より一層の情報発信や細やかな進学指導の必要性を感じています。

【保護者連携】について

手作りながら、『ブリテン』を復刻刊行し、保護者・生徒と教員の絆の機関誌にと考え発刊したところ、情報発信に少しお役に立てているようで喜んでいきます。今後生徒のクラブ活動・褒賞関係や進路指導・生徒指導の取り組みなどを詳細に掲載し、よりよい情報発信を心がけて参りますので何卒ご協力をお願いします。

【施設・安全管理】について

この点については、90%以上の数値が見え、評価は高くなっています。本校の特色として清掃指導も重要な教えにあり、美しい学校と評価を頂いています。心の健康・豊かな心の育みと命を大切にす精神をより推進します。

【次年度の改善点と取り組み】について

カトリック精神を基本とした教育理念に基づく思いやりの温かな心を育み、より品性ある礼儀を磨き、特性を伸ばす教育を実践します。

共学化4年目の今、授業を第一とする「学習のシステム」の構築から実践へ、教務進学システムを導入した模試データの分析により、前年度を上回る成績を目指し、生徒一人一人の特性を大切にす進路指導の強化を図ります。そのために、各校務分掌の職務の点検と運営を心掛けた組織的な管理体制の策定に取りかかります。

2013. 4. 1

賢明学院中学高等学校
校長 南 登章生

学校関係者評価

2012年度学校関係者評価委員会の概要

○日 時 2013年2月16日 13時～15時

○会 場 賢明学院小学校第2会議室

2012年度事業に対する学校関係者評価委員会において、学院が行った自己評価は概ね適正に行われているとの評価を頂いた。評価の過程の中で頂いた今後の改善点等、主な意見は下記の通りである。

なお、委員会を欠席した委員については、資料及び議事録を送付して後日意見を徴収している。

記

I 総 評

調査方法について	評価基準も幼稚園だけA～Eの5段階評価となっているので統一する事。(他は4段階となっている)
調査結果の評価について	同じ評価項目であっても、誰が評価するかによって結果は異なる。保護者の評価と生徒児童の評価、教員の自己評価をマトリクス的に比較する事で、問題点を浮き彫りにし、改善策を検討する必要がある。またデータの分析方法を工夫するべきである。たとえば現在の1年生と昨年の1年生のアンケート結果を比較するだけでなく、昨年の1年生と現在の2年生を比較する事で、同一評価者による評価の推移を明確化できよう。
評価への対応について	学校評価によって判明した問題について、対策を取らなければ評価をする意味が無い。問題に対する改善策を講じることで、より良い教育環境を整える努力をして頂きたい。

Ⅱ 幼稚園

<自己評価について>

全体について	保育活動は保護者の期待に応じているとの判断は、前年度に比べ相対的に数値が向上しているという点から見て適切であると言える。また、アンケートの回収率の向上は、教職員一人ひとりの努力の成果なので、今後も継続して頂きたい。
保護者の評価について	特定の保護者とのトラブルを解決できなかった事によって、教育に対する一部低評価を生んでしまった事は残念である。
教員の自己評価について	教員の評価と保護者の評価が乖離する項目が見られた。もっと保護者との連携を綿密にする事で問題点の共有化を図る必要があるだろう。保護者との連絡の強化を図る事は、2012年度の目標に掲げてきたはずである。未だ不徹底な部分があることが明らかになった以上、早急な対策を望む。

<学校関係者評価を受けての改善策>

今年度、一部保護者から集会の回数が多すぎるとの批判があった。電子媒体を積極的に活用する事によって、保護者の負担を減らしながら情報の共有化を推進する事が重要であると考えている。

Ⅲ 小学校

<自己評価について>

調査の実施方法について	教員によるアンケート項目への解説や、アンケート項目の読み聞かせの仕方によって、回答が左右される場合がある。低学年の場合は特に留意して頂きたい。
児童・保護者評価について	カトリック教育に関する評価は、高学年になるほど評価が下る傾向にある。受験に集中しがちになる高学年こそ、情操教育の効果が表れるように努めて頂きたい。

<学校関係者評価を受けての改善策>

カトリックの精神に基づく教育は、学院の根幹である。高学年だけでなく、入学時からの教育を見直していきたい。

IV 中学・高等学校

<自己評価について>

全体について	アンケートの回収率が100%でない事が残念である。より良い学校づくりの為に、次年度は回収率100%を目指して頂きたい。
生徒・保護者評価について	教育に対する評価はA及びB評価が7割を超えており、非常に高い評価を得ている。進学やクラブ活動における成果の向上がそれを裏付けおり安心できる。
教員評価について	重点施策として位置づけていた項目の評価が軒並み下落している事が残念である。肯定的に評価すれば、重点施策とした事で、その項目の達成度が低い事に気づき、評価が下がったとも言えるが、次年度においては、大幅な改善ができるような施策を取って頂きたい。

<学校関係者評価をうけての改善策>

アンケート回収率向上の為に、学校・学年・学級通信等による情報発信や、面談等による保護者からの情報収集の機会を増やしていく必要がある。また、教育評価の一層の向上の為に、授業やクラブ指導等にこれまで以上の努力をして、目標を達成していきたい。

教員の自己評価が低い原因の一つに、3年以内に採用された教職員が多く、組織的に未成熟で、個人の力を出し切れていないと言う点がある。校務分掌の見直しや新たな管理職の育成によって強固な組織づくりを推進したい。

以上